

「図書のまち阿南」構想 市民説明会 議事要旨

— 阿南市主催・2026 年(令和 8 年)1 月 28 日 —

日 時 2026 年(令和 8 年)1 月 28 日(水)18:00～

場 所 那賀川図書館 視聴覚室

主 催 阿南市

説明者 坂本教育長、阿南市立図書館 松本館長 ほか関係職員

議 題 「図書のまち阿南」構想の具体化に向けた方向性について

※ 本記録は、公開で開催された市民説明会について、当会が要旨をまとめたものです。阿南市による確認を経た公式記録ではありません。

※ 参加された市民の方のお名前は記載していません。

1. 開会あいさつ(坂本教育長)

- ・昨年 10 月以降に市民から寄せられた多数の意見を踏まえ、構想の具体化に向けた市の現在の方向性を市民に報告し、さらに意見交換を行うことが本説明会の目的である。
- ・寄せられた意見の集計結果と、それを踏まえた市の今後の方向性を説明する。説明後の意見交換にも積極的に参加してほしい。

2. 市の説明(松本館長)

2-1 構想の背景と目的

- ・本構想は、市が既に策定した「阿南市新図書館基本計画」および「阿南市中央図書館(仮称)整備計画」を土台としている。
- ・目指す目的は、「市民がいつでも誰でも気軽に図書に親しみ、学び合えるまちづくり」の実現である。

2-2 構想の全体像

- ・新たに整備する「阿南市中央図書館(仮称)」を拠点とし、既存の那賀川図書館・羽ノ浦図書館、さらに市内の公民館、小中学校、地元書店等が連携する「読書テラス・ネットワーク」を構築する。
- ・那賀川・羽ノ浦両図書館は存続させたうえで、単なる維持にとどまらず、地域のニーズに応える「新たな公共空間へ進化させる」。

2-3 市が挙げた課題

- ・公共施設のあり方:人口減少社会を見据え、市全体の公共施設の数や規模の適正化を検討する必要がある。
- ・人的資源:那賀川・羽ノ浦両館に分散している図書館司書等の専門職員を新中央図書館に集約し、レファレンスや他自治体図書館との連携など専門性の高いサービスを効率的に提供する。
- ・物的資源:新中央図書館(蔵書能力 26 万冊)の蔵書を充実させるため、既存館からの図書の移管を進める必要がある。
- ・情報資源:導入から 20 年近く経過した図書館システムを更新し、電子書籍の拡充など ICT 化・デジタル化を推進する必要がある。
- ・既存図書館の老朽化:築 30 年以上が経過した那賀川・羽ノ浦両図書館について、抜本的な長寿命化対策が不可欠である。
- ・財源確保:新中央図書館の建設費(約 37 億円)の確保が極めて重要な課題である。

2-4 財源と国の制度

- ・約 37 億円の建設費に対し、国の補助金(都市構造再編集集中支援事業)や地方債(公共施設等適正管理推進事業債)を最大限活用することで、最大で約 27 億円の国からの支援が見込まれる。
- ・これらの財政支援を受けるための条件として、「集約化・複合化の対象となった施設の機能廃止」が求めら

れる。具体的には、新中央図書館の供用開始後 5 年以内(立地適正化計画に位置づけられる場合は 10 年以内)に対象施設の機能を廃止する必要がある。

- ・市の見解として、ここでいう「機能の廃止」とは図書館法上の図書館としての運営を停止することを指し、これにより要件を満たす一方、「用途転換」によって図書関連サービスの一部を保持する新たな公共施設として活用することは可能である、との説明があった。

2-5 市民意見の集計結果

- ・昨年 10 月から 11 月にかけて実施した意見募集では、要望書や署名を含め、合計 184 件の意見が寄せられた。
- ・構想の積極的推進を求める意見 24.5%
- ・より慎重な検討を求める意見 26.6%
- ・那賀川・羽ノ浦図書館の現状維持を望む意見 56.5%
- ・構想推進への期待と、既存図書館の機能維持を強く望む声という、相反する意見が市民の中に存在することが明らかになった。

2-6 今後の方向性

- ・阿南市中央図書館(仮称):幅広い世代のニーズに応える生涯学習の拠点として整備を進め、令和 12 年度の供用開始を目指す。
- ・那賀川・羽ノ浦図書館:既存の建物を存続させたい一方で、「残す機能」「見直す機能」「新たに導入する機能」の 3 つの観点から施設を再構築する。
- ・存続させる方針として示された機能:図書館司書の配置／貸出・返却・予約機能(市役所内の図書館カウンターの利点を取り入れた「読書テラスカウンター」として維持)。
- ・新たに導入する機能:子育て支援機能(全天候型キッズエリア等)、公民連携による新たなサービス、市民の交流を促進する機能などを軸に、各地域の特色やニーズに合わせて検討する。

3. 質疑応答

【市議から】

質問 那賀川・羽ノ浦図書館が図書館法上の「図書館」でなくなることを、なぜ明確に説明しないのか。また、昨年 10 月に提出した要望書に対する市の回答はいつになるのか。

回答 両施設は図書館法上の「図書館」とは異なる新たな公共施設として、別途条例を制定し管理する方針である。その位置づけは、現在市役所内で運営されている図書館カウンターと同様の「分室カウンター」としての機能を想定している。要望書については、後日正式に回答する。

【参加者から】

質問 市の資料では市全体の有効登録者率を 15%としているが、羽ノ浦図書館単体の利用率は高いと聞いている。この高い地域利用率を踏まえ、蔵書の中央図書館への集約には反対である。新中央図書館を交流拠点とし、既存館の蔵書は現状のまま維持すべきではないか。

回答 資料に記載の登録者数 15%という数値は、阿南市の総人口に対する割合を示したものである。蔵書のあり方に関する意見は、貴重なものとして承る。

【参加者から】

質問 市は既に国の補助金交付を前提として計画を進めており、那賀川・羽ノ浦両館の機能廃止は事実上の決定事項ではないか。曖昧な説明ではなく、補助金との関係を明確に伝えるべきだ。

回答 補助金は事業完了後に精算される仕組みであり、全額を事前に受領しているわけではない。ただし、本計画の財源として国からの財政支援が不可欠であることは事実である。

【守る会から】

質問 1 国の補助金申請の対象を、既に機能廃止されている旧阿南図書館と市民会館の 2 館に限定できないのか。そうすれば、那賀川・羽ノ浦両館を図書館として現状維持できるのではないか。

質問 2 那賀川・羽ノ浦両館を「読書テラス」等に改修する場合の費用はいくらか。

質問 3 新中央図書館のイメージ図はガラス張りだが、建設費および維持管理費が高額になるのではないか。

質問 4 募集した市民意見(184 件)の全文はいつ公表されるのか。

質問 5 総務省の見解では、要件でいう「廃止」とは施設の除却や転用を指すとある。市の計画のように貸出機能や司書配置を一部維持することは、この要件と矛盾しないのか。

回答(市側)

- 1 既に機能廃止された 2 館のみを対象とした場合、事業が国から採択される確実性が低かった。市の公共施設再編計画全体を示すうえで、4 館を対象とすることが評価上必要であったと判断した。
- 2 改修費用は現在積算中であり、本年度末(3 月末)までに公表する予定である。
- 3 提示したものはあくまでイメージであり、実際の設計では鉄骨造と鉄筋コンクリート造を比較検討している。一概にガラス張りが高額とは言えず、ライフサイクルコスト全体を考慮して設計を進めている。
- 4 全 184 件の意見全文は、既に市の公式ホームページ上で公表済みである。
- 5 極めて重要な論点であると認識している。市民からの要望が最も強い「本を借りられる機能」「司書のいる環境」を何とか維持するため、図書館法上の「図書館」とは異なる「新たな公共施設への転用」という形で国の制度要件を満たせるよう、国との協議および検討を継続している。

【複数の参加者から】

- ・市が説明する「貸出機能の維持」は、実際には予約した本を受け取るカウンター機能が主であり、その場で自由に本を選んで借りられる従来の機能とは異なる。誤解のないよう、より明確に説明すべきである。
- ・地域に根ざした 2 つの図書館を縮小・機能転換し、中心部に 1 つ施設を建設することをもって「図書のまち」と称するのは矛盾しているのではないか。
- ・あらためて、補助金申請の対象を旧阿南図書館と市民会館の 2 館のみに変更し、那賀川・羽ノ浦両館を図書館として存続させる道を探ることはできないか。
- ・人口減少が進むなかで巨額の新規投資を行うことの是非。新設よりも既存施設の長寿命化に予算を重点的に配分すべきではないか。

回答 計画の根本的な見直しを求める意見に対し、市側からは、そのような変更は行政担当者の権限を超えるものであり、最終的には選挙で選ばれた指導者による「政治的判断」が必要になる、との回答があった。

4. 閉会

- ・会議の最後に、参加者への挙手による意思確認が行われ、現行計画案に賛成する挙手はなかった。
- ・予定時刻を大幅に超過して議論が交わされ、閉会となった。

作成 2026 年 8 月(阿南中央図書館(仮称)開館後も羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会)